

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

ダイトウヤマガラ

Sittiparus varius orii Kuroda, 1923

西海功（国立科学博物館）・梶田学

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 鳥類分科会



環境省 編

令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：西海功・梶田学，2026. ダイトウヤマガラ. 環境省（編）第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物， pp. 39-42.

Citation: Nishiumi, I. and M. Kajita, 2026. *Sittiparus varius orii* Kuroda, 1923. In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 39-42.

ダイトウヤマガラ

Sittiparus varius orii Kuroda, 1923

カテゴリー判定結果 絶滅 (EX)

③

基準 A: —	基準 B: —	基準 C: —	基準 D: —	基準 E: —
---------	---------	---------	---------	---------

過去に我が国に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、我が国ではすでに絶滅したと考えられる種

具体的には、以下の事項を満たす。

③過去 50 年間前後の間に、信頼できる生息の情報が得られていない。

【判断理由】

1922 年に南大東島、北大東島で採集された後、記録がないため。

評価分科会： 鳥類分科会

概要

大東諸島の固有亜種。南大東島にて 1922 年にオス 8 羽、メス 4 羽が発見、採集され、北大東島でも同年オス 2 羽が採集された。その後記録がないので絶滅したと考えられている。絶滅の原因は不明。

基礎情報

【形態】

頭は黒色淡色の縦斑が後頭部にある。頬および額はバフ色だがやや褐色みが強い。背、腰、尾羽と翼はオリーブ色みのある青灰色で、上背には栗褐色帯がある。下面は赤みのある褐色。虹彩は暗褐色（vandyke brown）、嘴は石板黒色。脚は青みがかった灰色（Kuroda 1923 および標本の観察による）。亜種ナミエヤマガラ（*Sittiparus varius namiyei*）に非常によく似ているが測定上やや小さい。測定値は以下のとおり。翼長 71～79.5 mm、尾長 47～56 mm、ふ蹠長 19～20 mm、露出嘴峰長 11.5～13.5 mm、全嘴峰長 14.5～15 mm。以上、Kuroda（1923）の記述による。

【生活史】

繁殖の記録はない。巣卵の標本は採集されたことがない。

【生息環境】

不明。

生息環境区分：	【陸域_その他（不明）】その他（不明）
---------	---------------------

国土地域区分：	（7）島嶼地域
---------	---------

【分布域】

大東諸島の南大東島および北大東島のみに分布していた記録がある。他亜種は、北海道から八重山諸島にかけてと伊豆諸島を含む日本、および朝鮮半島、台湾島に繁殖分布している。

南大東島で折居彪二郎によって、1922 年 9 月 27 日から 10 月 18 日までにオス 8 羽、メス 4 羽（タイプ標本オス：黒田長禮標本 No.7359 を含む Nos.7352～7363）、北大東島にて同年 10 月 27 日にオス 2 羽（黒田長禮標本 No.7364、7365）が採集されたのみ。これらの標本は南大東島産の No.7356、No.7358（これらは現在山階鳥研所蔵）を除いて 1945 年戦災によって焼失した。

絶滅に至った経緯とその要因

不明。

要因の区分：	（過去）	不明
	（現在）	—

特記事項

分布域のきわめて狭い亜種として貴重である。分類学上不明な点も多く、学術上も興味深い。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ダイトウヤマガラ	<i>Poecile varius orii</i>	EX
第4次 2019:	ダイトウヤマガラ	<i>Poecile varius orii</i>	EX
第4次 2018:	ダイトウヤマガラ	<i>Poecile varius orii</i>	EX
第4次 2017:	ダイトウヤマガラ	<i>Poecile varius orii</i>	EX
第4次 2015:	ダイトウヤマガラ	<i>Parus varius orii</i>	EX
第4次:	ダイトウヤマガラ	<i>Parus varius orii</i>	EX
第3次:	ダイトウヤマガラ	<i>Parus varius orii</i>	EX
第2次:	ダイトウヤマガラ	<i>Parus varius orii</i>	EX
第1次:	ダイトウヤマガラ	<i>Parus varius orii</i>	Ex

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【沖縄県】絶滅(EX)

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

鳥獣保護管理法

参考文献

- 池田善英, 1986. 北大東島で冬期に観察された鳥類. 山階鳥類研究所報告, 18: 68-70.
- Kuroda, N., 1923. Descriptions of apparently new forms of birds from the Borodino Islands, Riu Kiu group, Japan. Bull. B. O. C., 43: 120-123.
- Kuroda, N., 1925. A Contribution to the Knowledge of the Avifauna of the Riu Kiu Islands and the Vicinity. Published by the author, Tokyo. 293pp.
- 大沢啓子・大沢夕志, 1990. 南大東島で観察された鳥類. 山階鳥類研究所報告, 22: 133-137.
- 大沢啓子・大沢夕志, 1995. オオコウモリの飛ぶ島. 山と溪谷社, 東京. 229pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Sittiparus varius orii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sittiparus varius orii* is listed as EX under criteria ③.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

③No reliable information on the existence of this species has been obtained for approximately

the past 50 years.	
Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Other】 Other
Threat types:	—
Law designation status for conservation	Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act.

執筆者:	西海功（国立科学博物館）・梶田学
Author:	Isao Nishiumi and Manabu Kajita

公表年月：2026 年 3 月